

下関市小月配水池で採集された淡水産貝類

増野 和幸¹⁾

1 はじめに

淡水産貝類は、河川、溜池、堤、ダム湖、用水路など各地の陸水中に生息する貝類である。国内におよそ 150 種がいるとされるが、そのうち山口県内で 38 種が確認されている (レッドデータブックやまぐち 2019, 山口県)。前掲資料において淡水産種 12 種が絶滅危惧種としてピックアップされているが、淡水産貝類の生息実態は、十分に把握されているとは言えない。それは、生息環境が淡水中であることから、調査が容易に行えないことに起因している。このため、発見は偶然による場合や生息地の環境改善工事に伴う排水、天候等による水の減少がある場合である。こうした中、意識的、計画的な観察と調査による詳細な生息実態の把握が望まれる。

さて、今回、筆者のもとに淡水産貝類の生息を知らせる情報が入り、現地へ赴き、貴重な貝類を採集することができた。その際採集した淡水産 4 種を報告する。

報告に際し、情報の提供および現地での調査の機会を与えていただいた、山口県西部利水事務所 (下関市菊川町西中山) の所長、職員の皆さんに感謝申し上げます。

2 採集地と採集個体

採集地：下関市小月配水池 調査日：2021 年 2 月 9 日

採集個体：カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould) 11 exs.

ヒメタニシ *Sinotaia histrica* (Gould) 7 exs.

ヌマガイ *Sinanodonta lauta* (Martens) 11 exs.

マシジミ *Corbicula fluminea* (O. F. Müller) 10 exs.

配水池の水は、木屋川から取水されたもので、取水口は菊川町の湯の原ダム (菊川町西中山) である。このため、今回採集した貝類は、木屋川を生息起源としていると考えられる。

カワニナは雌体内に保有した胎児殻を摘出して観察したが、殻表面に弱い縦肋を有していた。成体の殻頂部にわずかな幼時の名残を残し、弱い縦肋が観察できる。しかし、殻表面に強い肋を有するチリメンカワニナ *S. reinana* (Brot) ではない。

ヒメタニシは、タニシ類の中では小形で、流れの停滞した水底だけでなくやや流れのある環境にも生息する。配水池内では、大形のタニシ類であるマルタニシ *Cipangopaludina cf. laeta* (Martens) やオオタニシ *Heterogen japonica* (Martens) は見られなかった。両種は、かつて水田や用水路、里山の堤などで普通に見られたが、最近はめっきり観察できなくなった。レッドデータやまぐち 2019 でも対象種となっ

1) MASHINO, Kazuyuki 〒750-0441 下関市豊田町大字中村 503 下関市立豊田ホテルの里ミュージアム

ている。

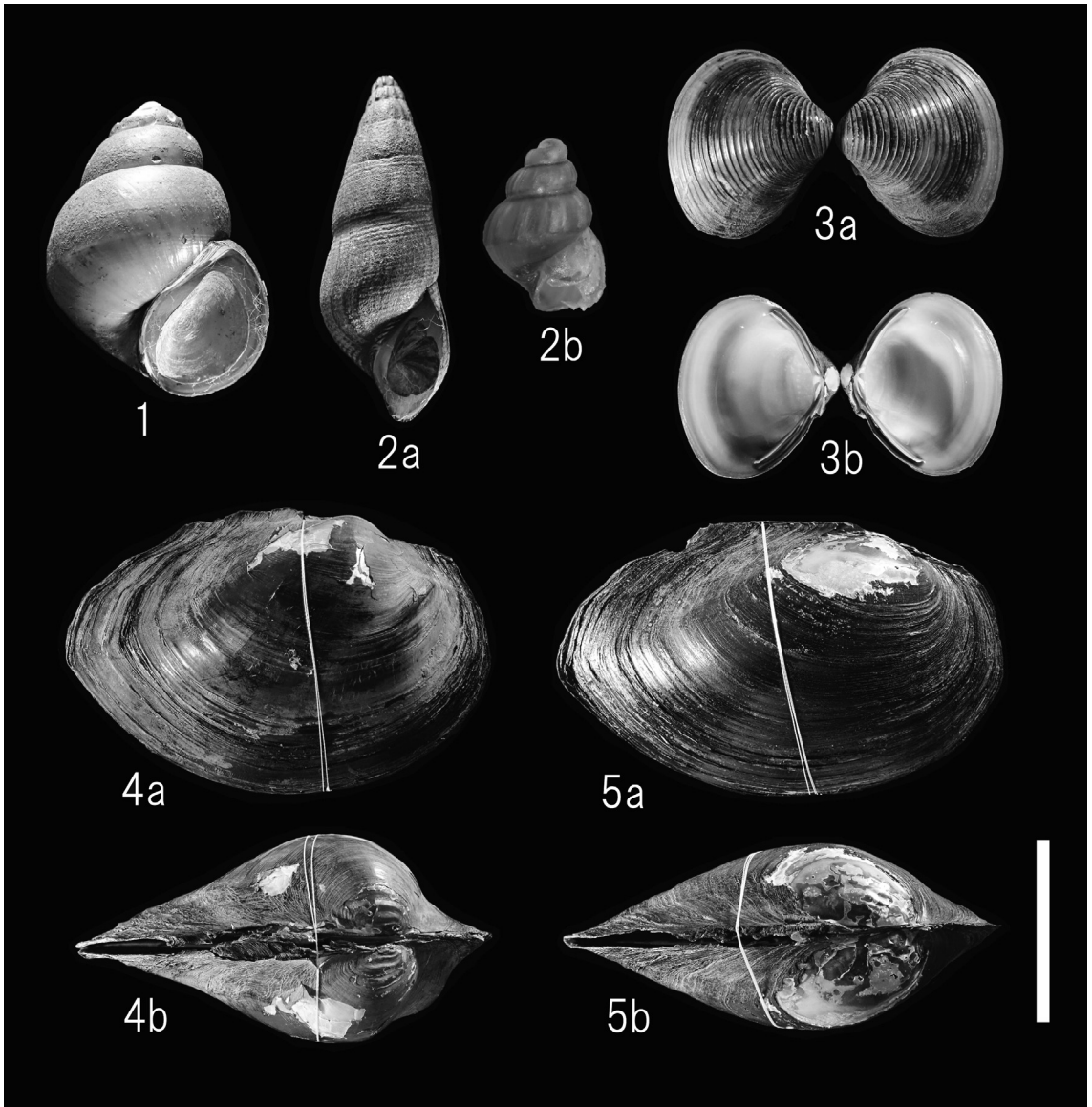
今回採集したヌマガイは、殻長に対して殻幅が大きいことを特徴としており、ドブガイ A 型に属する。ドブガイ類は、かつてはその殻形態からドブガイ、ヌマガイ、タガイなどと呼ばれていたが、殻形態の差異は個体変異や地方変異があると見なされ、すべてドブガイ 1 種にまとめられた (波部, 1977)。その後、遺伝子的手法および幼生の形態 (田部・他, 1994; 近藤・他, 2006) により、殻短で殻幅の大きいヌマガイ (ドブガイ A 型) と、殻長で殻幅の小さいタガイ (ドブガイ B 型) に分類された。近藤・他 (2011) は、これら 2 種の殻形態による判別式を求め、判別できることを報告した。今回、図版のように細長型と太短型の 2 型が同所的に採集された。ヌマガイ、タガイの 2 種の混生が疑われたが、判別式を適用することによりいずれもヌマガイ 1 種と判定された。なお、最近、日本、韓国、東ロシアのサンプルにジーンバンクのデータを加えて分子系統解析を行った新しい分類体系では、ヌマガイとタガイは 2 つの属に分かれるとされている。

マシジミについて、近年、市街地を中心に外来種のシジミ類、タイワンシジミ *Corbicula flaminea* (Müller) が繁殖、拡大している。県内でも各地で普通に見かけるシジミ類は、マシジミではなく殻色がやや黄褐色であったり、殻内面が濃紺色や橙色を呈する外来種に置き換わっている。在来のマシジミが観察できる機会は、極めて少なくなっている。今回採集した個体は、殻表面が黒色で、殻内面が淡く紫色になる典型的なマシジミである。

3 参考文献

- 波部忠重 (1977) 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱／掘足綱. Xii +372 pp. 図鑑の北隆館. 東京.
- 近藤高貴 (2020) イシガイ科貝類の新たな分類体系. ちりぼたん, 50 (2) : 294-296.
- 近藤高貴・田部雅昭・福原修一 (2006) ドブガイに見られる遺伝的 2 型のグロキディウム幼生の形態, *Venus*, 65 : 241-245.
- 近藤高貴・田部雅昭・福原修一 (2011) ヌマガイとタガイの殻形態による判別. ちりぼたん, 41 (2) : 84-88.
- 田部雅昭・福原修一・長田芳和 (1994) 淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的 2 型. *Venus, Japanese Journal of Malacology*, 53 : 29-35.
- 山口県自然保護課 (2019) レッドデータブックやまぐち 2019 <https://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/rdb/site/index.php>.

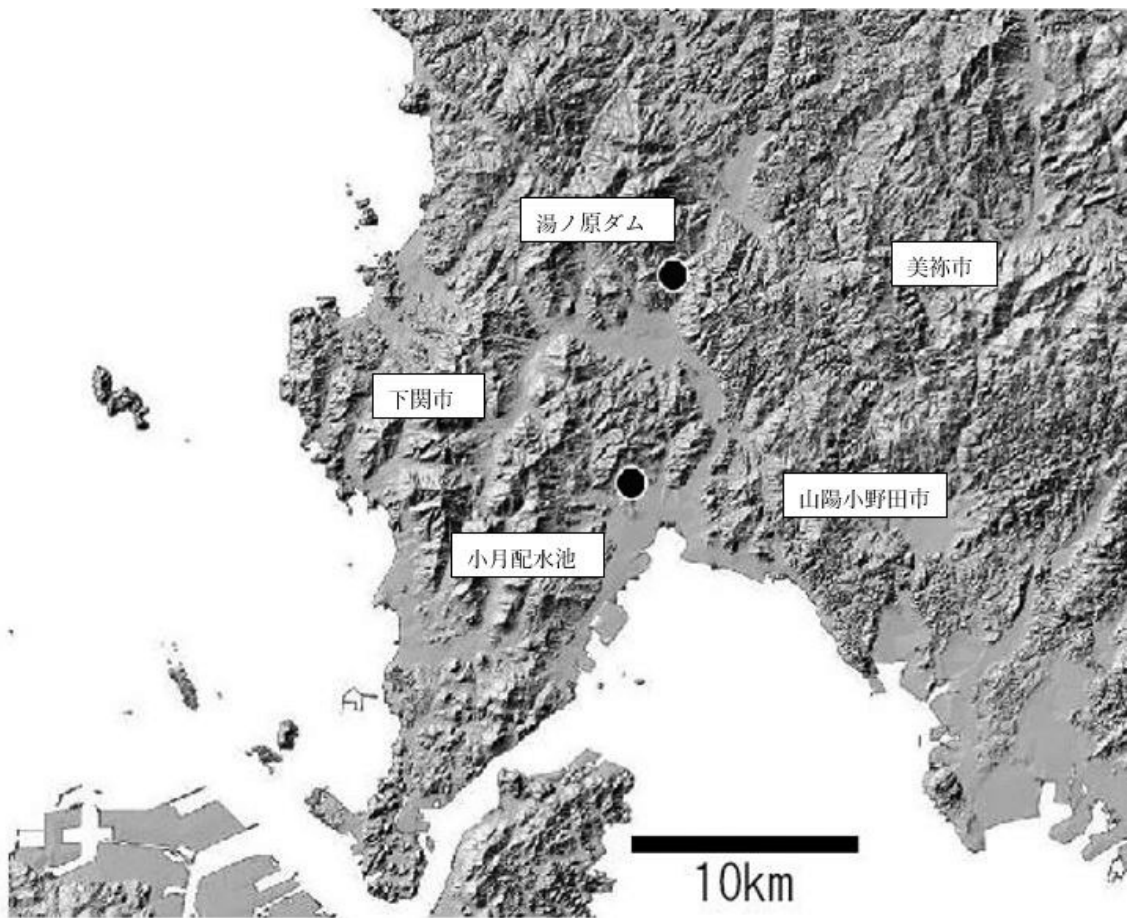
(図版)



図版説明

1. ヒメタニシ [Scale bar : 16.1 mm] ; 2a. カワニナ (成体) [S.b. : 16.9 mm] ; 2b. カワニナ (胎児殻) [S.b. : 2 mm] ; 3a, b. マシジミ [S.b. : 29.5 mm] ; 4a, b. ヌマガイ [S.b. : 50.7 mm] ; 5a, b. ヌマガイ [S.b. : 47.1 mm].

図 位置図



(地理院地図 陰影起伏図加工 Web より)